



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | ギンクタウダ（マリーヤ・ミヘエワ）の生涯：ウイльта語北方言テキスト                                               |
| Author(s)        | 山田, 祥子                                                                            |
| Citation         | 北方言語研究, 6, 179-201                                                                |
| Issue Date       | 2016-01-20                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/60800">https://hdl.handle.net/2115/60800</a> |
| Type             | other                                                                             |
| File Information | 10yamada.pdf                                                                      |



[資料・研究ノート]

ギシクタウダ (マリーヤ・ミヘエワ) の生涯  
—ウイльта語北方言テキスト—<sup>1</sup>

山田 祥子  
(北海道立北方民族博物館)

本稿では、エレナ・ビビコワ Elena Alekseevna Bibikova (1940-; 敬称略、以下同様) から筆者が採録した、故ギシクタウダ Gisiktauda<sup>2</sup> (ウイльта名。ロシア名ではマリーヤ・ミヘエワ Marija Stepanovna Mikheeva; 1910?-1993) についてのウイльта語北方言による語りをテキスト化し、訳注を付けて紹介する。

## 1. 本テキストの歴史・文化的背景

### 1.1 ウイльта語の概要

ウイльта語は、サハリン島の先住民族であるウイльта Uilta (旧称オロッコ Orok) の固有の言語である。ツングース諸語の一つで、そのなかでもナーナイ語・ウルチャ語とともに第III群に分類される (Ikegami 1974 [2001: 395])。ウイльта語の方言は、サハリン北部のワール Val を中心とする地方で話される北方言と、中部のポロナイスク Poronajsk (旧、敷香) を中心とする地方で話される南方言の二つに分けられる (池上 1994 [2001: 247-248]) (図1-1参照)。

ウイльтаは伝統的に、飼育するトナカイの群れとともに季節移動をしながら、漁労、海獣・陸獣狩猟、採集などにより生活していた。季節移動の経路などにより、ウイльтаの民族誌は従来、ウイльта語で *doronneeni* と呼ばれる北のグループと、*suunneeni* と呼ばれる南のグループという、二つの地域グループに分けて記述される (Roos 1996: 13-14, Missonova 2006: 17; 一部表記を改変)。これを上述の方言分類に照らせば、北のグループをウイльта語北方言の話者集団、南のグループをウイльта語南方言の話者集団とみることができる。

現在サハリンには300~400人のウイльтаが居住するが、日常会話はすべてロシア語で行われる。2015年現在、ウイльта語の話者は二つの方言を合わせても10名に満たず、全員60歳を超えている。

### 1.2 民族接触と地域グループの分離

サハリンには古くからウイльтаのほかニヴフやアイヌが居住し、とりわけ海岸部や河口近くでの漁労が盛んになる夏季は諸民族が近接して暮らすことが多かった。本稿

<sup>1</sup> 本研究にあたり調査に応じてくださったエレナ・ビビコワさん、写真の使用・掲載の便宜をはかってくださったサハリン州郷土博物館研究員のアンナ・レフコフスカヤさん、本稿を注意深く読んで貴重なコメントをくださった匿名の査読者各位に、記して感謝申し上げます。なお、本稿は科学研究費補助金特別研究員奨励費 (課題番号21・2110)、独立行政法人日本学術振興会優秀若手研究者海外派遣事業 (2010年度) による成果の一部である。

<sup>2</sup> ロシア語の文献では Гисиктавда (Gisiktavda) と表記される。

テキストとの関連でアイヌとウイルタの関係についていえば、アイヌとは、ウイルタの南のグループが夏季に逗留するポロナISK周辺(タライカ地方)で伝統的な居住地が隣接する。他方、アイヌの居住地がサハリンの南半に限られるため、ウイルタの北のグループは南のグループと比べるとアイヌとの接触が少なかったと考えられる。

もっとも、20世紀初め頃までは諸民族や地域グループを分かち明確な境界はなかった(Roon 1996: 13-14)。ウイルタは、季節移動の経路こそ集団によって異なっていたとして

も、交易などの目的では南北を自由に行き来し、他の地域グループや他民族の人々と接触することは決して珍しくなかったであろう<sup>3</sup>。池上(1994 [2001:248])は、「南・北方言の話し手たちはそれぞれ、他方の方言で話されるのを理解できるようであり、両方言の差異が異なる言語間におけるほどの大きな差異ではない」と記述している。このように、ウイルタ語の南北の方言差があまり大きくないことも、話者集団どうしが常に交流していたことを示唆するように思われる。

ウイルタの地域間の交流が断たれ、地域グループが分離したのは、20世紀前半のロシア／ソ連と日本によるサハリンの分割の結果であろうと考えられる。1905年、日露戦争後のポーツマス条約により、北緯50度以北のウイルタはロシア／ソ連領で、北緯50度以南のウイルタは日本領で暮らすことになった。結果として、1945年までの約40年の間、北緯50度線はウイルタの地域グループ間の境界となり、南北で異なる言語・文化の変容を経験したため、地域差が大きくなっていった。

### 1.3 ギシクタウダの経歴と時代背景

ギシクタウダ(マリーヤ・ミヘエワ)は、ロシア／ソ連と日本の境界領域にあるサハリンで20世紀という激動の時代を生きた、ウイルタ女性の一人である。20世紀初め、

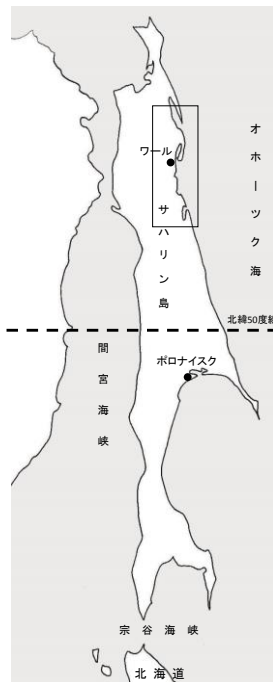


図1-1 サハリン島広域図

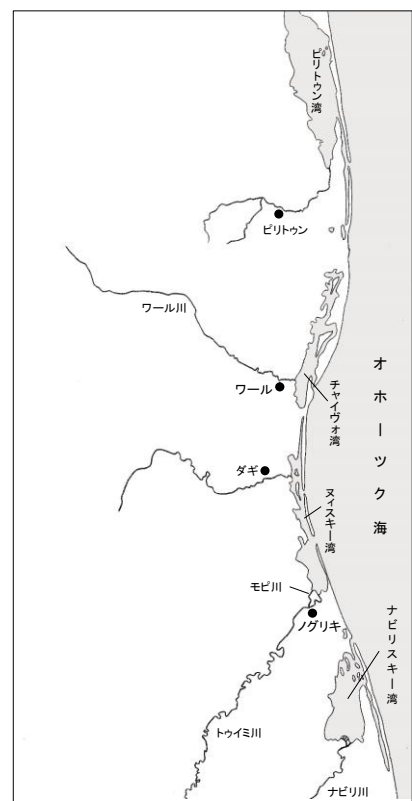


図1-2 サハリン島北東部の関連地図

<sup>3</sup> これは、ウイルタの氏族名が南北の地方でいくつか共通していたり、北の地方に存在する地名に由来する氏族名の集団が南の地方に居住していたり、その逆の場合もあること(Smoljak 1975: 144)からも裏付けられる。1904年に民族調査を行ったB. ピウスツキも、わずか3世代前にトリサ氏族の一部が北の地方から南の地方に移ってきて定着したという事例を報告している(Pišudski 1998: 620)。

北緯50度線上の国境によって南の地方との交流が断たれた直後のロシア領サハリン（北樺太）でウイルタの北のグループに生まれ、ソ連時代を初めから終わりまで経験して、20世紀の末に亡くなった。以下、先行記述をもとにギシクタウダの経歴と時代背景を紹介する。

ギシクタウダ Gisiktauda（マリーヤ・ミヘエワ Marija Stepanovna Mikheeva）は1910年頃<sup>4</sup>、ロシア領サハリンのトゥイミ川流域にあるトナカイ飼育地で生まれた。



図2 ギシクタウダ(右)とその姪マトリョーナ・I. ミヘエワ(左)（1978年ワール村；サハリン州郷土博物館所蔵写真）

1925年にサハリン北部でソ連政権が成立した直後（1920年代末頃）、ギシクタウダは結婚してワール川地域に移り住む。1930年代にはコルホーズ「ワール」に加わり、夫とともにトナカイ飼育業に従事した（Roon & Tsupenkova 1995: 223）。

第二次世界大戦後、1950年代末にコルホーズ「ワール」がより大規模なソフホーズに合併され、トナカイ飼育業の再編にともなって女性たちは牧地での仕事を失い、村への定住を余儀なくされた（Roon 1996: 161）。ギシクタウダも1960年代初めにワール村に移り住み、亡くなる1993年までそこに定住した（Roon & Tsupenkova 1995: 223）。

晩年に当たる1989～1993年、ギシクタウダは歴史・民族学者タチヤーナ・ローン Tat'jana Petrovna Roon（元サハリン州郷土博物館館長）や言語学者・故池上二良（北海道大学名誉教授）らの調査インフォーマントとなった。調査の成果として、池上（1994 [2001]）にはギシクタウダによるウイルタ語北方言の基礎語彙が、Roon & Tsupenkova（1995）、池上（2002）には同氏によるウイルタの口承文芸（ただし、前者はロシア語訳のみ）が掲載されている。ウイルタの代表的な民族誌であるRoon（1996）も、ギシクタウダから聴取した情報に依るところが大きい。さらに、近年筆者が行う現地調査で現在のウイルタから得られる情報も、本をただせばギシクタウダから聞いた情報だということが珍しくない。

このように、ギシクタウダは、20世紀のウイルタ（特に北のグループ）の歴史や文化を次世代に伝えた伝承者として、故人となった現在でも極めて重要な人物といえる。

#### 1.4 本テキストの語り手について

本テキストでは、ウイルタの北のグループで、ちょうどギシクタウダの次の世代に

<sup>4</sup> 生年について本テキスト語り手のE. ビビコワによれば、ギシクタウダのパスポートには「1910年」生まれと記載されていた。しかし、この時代の生年は概数で登録されていることが多いので実際のところは定かでない。池上（1994 [2001: 248]）、Roon & Tsupenkova（1995）はギシクタウダの生年を「1912年」としている。本稿では「1910年頃」としておく。

あたる伝承者E. ビビコワの視点から、自身とギシクタウダとの親交や、ギシクタウダの生涯について本人から伝え聞いた事柄がウイルタ語北方言で語られている。以下、回想録（Bibikova 2009、風間2011: 66-72）、および本人からの聞き取りをもとに、語り手の経歴を紹介する。

エレナ・ビビコワElena Alekseevna Bibikovaは、1940年にサハリン北東部のダギ近くのトナカイ飼育地でウイルタの家庭に生まれた。父はゲーッタ氏、母はヌーチ・トリサ氏の生まれだった。

1948年にノグリキの寄宿学校に入りロシア語を話すよう教育されたが、長期休暇で帰省するたび家族とウイルタ語で話したという。また、トナカイ飼育地ではエウエンキーとの交流があり、自然にエウエンキー語も話せるようになった<sup>5</sup>。

1961年に教員養成学校を卒業、1970年にはウラン・ウデの教育大学に入学してロシア語・ロシア文学を専攻、後に学位を修得した。1978年に帰郷し、ノグリキの図書館などで働いた。

1990年頃、上述の池上教授と知り合ったことをきっかけに、ウイルタの言語・文化に強い関心を持つ。この頃から、兼ねてより親交のあったギシクタウダほかワール村に暮らす先代のウイルタから熱心に学び、記録をするようになった。Roon & Tsupenkova (1995) では、ギシクタウダの語ったウイルタ口承文芸のロシア語訳を務めた。

近年もウイルタ語教案（Bibikova & Sverkunova 2012）、ウイルタの文様を紹介する普及用図書（Bibikova 2014）を著すなど、教育家としてウイルタの文化や言語の保存のために活動している。2015年10月現在、ワール在住。

### 1.5 ギシクタウダの家系と人物像：本テキストの概要と考察

E. ビビコワの語りによる本テキストから、ギシクタウダの家系を図3のように整理できる。ギシクタウダの父親の家系はゲーッタ氏、母親の家系はダーイ・トリサ氏である。母方の祖母は、かつてサハリンの南の地方から北の地方へ連れてこられてウイルタの妻とされたアイヌ女性二人のうちの一人だったらしい（本稿3.2 (2-5)～(2-11)）<sup>6</sup>。ウイルタの文化伝承者として知られるギシクタウダがアイヌの血を引いていたということは、サハリンの民族接触や先住民文化の成り立ちを考えるうえで興味深い。

<sup>5</sup> エウエンキーの一部は1860年代に大陸からサハリンの西海岸に移って来て、1890年代には東海岸にも進出していた（Smoljak 1975: 66）。エウエンキーはウイルタと同じく、トナカイ飼育民である。1938年にウイルタのkolhoz「ナビリ」とエウエンキーのkolhoz「クラスヌィ・ツングース」が併合され（Roon 1996: 160）、ビビコワの幼少期のサハリン北東部では両民族が共同でトナカイ飼育業に従事していた。

<sup>6</sup> タライカ地方（今日のポロナISK周辺）でアイヌとウイルタがたがった伝説があるが、その結末として、アイヌの美しい女性がウイルタの嫁として北へ連れ去られたと伝えられている。この伝説は、アイヌとウイルタのほかニヴフの間でも語り継がれ、20世紀初め頃から多くの調査者・研究者によって記録されてきた（Piłsudski 1912: 66-76, 1998: 647-648、池上2002: 45-48, 143-146ほか参照）。ギシクタウダの母方の祖母が南の地方から連れてこられたアイヌだったという話は、この伝説の結末を想起させる。

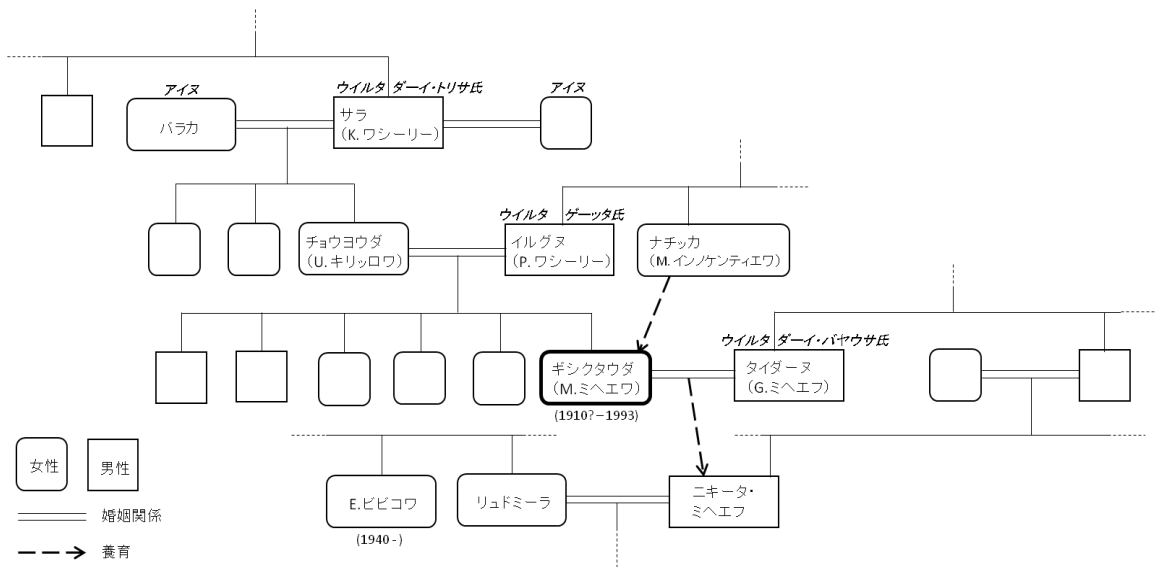


図3 ギシクタウダの家系図（本テキストにもとづき、作図）

また、テキストの各所からギシクタウダの人物像も描き出される。ギシクタウダとその夫タイダヌ（G. ミヘエフ）の間には子どもがいなかったが、身寄りのない親戚の子どもたちを引き取って養育した（3.1 (1-10)）。ギシクタウダは金銭の管理が上手で貯蓄家だが（3.3 (3-16)）、他方では困窮した人たちにお金を分け与える（3.3 (3-18)～(3-19)）気前の良い女性でもあったようだ。人々にとって首長のような役人のような、リーダー的な存在だったともいわれる（3.1 (1-8)～(1-9)）ことから、氏の人望の厚さがうかがえる。

ギシクタウダはコルホーズのために衣類や生活用具などを数多く製作していた（3.3 (3-4)～(3-5)）。働き者で、生涯を通じてウイльтаの伝統的な生業であるトナカイ飼育業を支え、衣食住全般にかかわる伝統的な知恵や技術を保持した人物であった<sup>7</sup>。

年老いてからは、夫とともに好んで魚釣りや映画鑑賞に出かけた（3.3 (3-23)～(3-26)、(3-28)）。祭りで歌を歌ったり、昔話を語って人に聞かせたりすることもいとわなかったという（3.3 (3-29)～(3-30)）。そのように活発で気さくな人柄もまた、同氏の伝承者としての功績と無関係ではないように思われる。

## 2. 凡例

### 2.1 採録方法

本テキストでは、2010年12月16日と同年12月20日にE. ビビコワから筆者が録音した計3回の語りを集録する。3回とも、当時ノグリキに居住していた語り手の自宅で採録した。

<sup>7</sup> 北海道立北方民族博物館にはギシクタウダの製作したトナカイ騎乗用鞍（ウイльта語で $\text{нэһмэ}$ ）が所蔵されている。1980年代にギシクタウダがその義理の孫（養子の子）のために子ども向けの小さいサイズで作ったもので、2015年に当館が収集するまではその子の母親が保管していた。

ビビコワは自主的にウイльта語原稿を用意しており、12月16日、当時ビビコワ宅に長期滞在していた筆者に原稿を読み聞かせようとするところを、許可を得て録音した。原稿が2部に分かれていたため、録音も1部ずつ、2回に分けて行った。この日に採録した第1部を本テキストでは3.1に、同日に採録した第2部を3.2に表わす。そのうち3.1の(1-1)～(1-3)と3.2の(2-1)と(2-31)は原稿読み上げ前に聞き手（筆者）に向けて話した文言、そのほかは原稿をもとに語られた部分である。

話の続きを筆者が求めたところ語り手が続きの原稿を用意し、その読み上げを12月20日に録音した。本テキストでは12月20日に採録した部分を第3部として、3.3に表わす。

全体として、実際録音されたものは必ずしも原稿どおりではない。たとえば、語句の途中で発音に詰まって読みなおしたり、（特に母音の長短について）原稿の表記と実際の発音が異なったりしたことがしばしばあった。本稿は原稿を参考にしつつ録音を聴いて作成した。録音が原稿どおりでない部分は、録音のほうをテキスト化した。

## 2.2 表記と分析

本テキストでは、1行目にウイльта語音韻表記、2行目にウイльта語基底形、3行目に英語グロス、4行目に日本語の意識を記す。

1行目および2行目では、池上（1997: xi-xvi）にもとづき、ローマ字式音韻表記（母音/a, ə, o [ɔ], ɐ [o, ɔ], u, i, e/, 子音/p, b, t, d, č[ʧ], ʃ[ʃ], k, g[g, ɣ~ɣ], m, n, ɲ, ɳ, l, r, s, x, w, j/)によってウイльта語を表記する<sup>8</sup>。「…」は、語り手がことばに詰まった部分である。2行目で接尾辞や語尾の基底形を表わす際は、母音調和により交替する母音をAで表わす。ロシア語の単語が挿入された場合は、1行目の音韻表記で該当個所をイタリックで区別し、2行目の基底形を[]で括弧する。ロシア語からウイльта語に音訳された語およびロシア語由来であることが明らかな借用語は、初出のみ、2行目で元になったロシア語の転写を[< ]として示す。

表記・分析は、語り手本人からの聞き取りのほか、Ikegami (1959 [2001], 1973 [2001]), Petrova (1967), 潤潟 (1981), 池上 (1997), Ozolinja (2001, 2013), Ozolinja & Fedjaeva (2003), Tsumagari (2009) を参考にし、筆者が行った。グロスに用いる略号は下記のとおりである。<sup>9</sup>

### 略号一覧

- : 形態素境界 / + : 融合 / # : 言い誤り、言いよどみ / ? : 分析不確定 / 1 : 一人称 / 3 : 三人称 / ACC : 対格 / ADJ : 形容詞につく接尾辞 / AL : 譲渡可能 / C : 副動詞 / CAUS : 使役 / COM : 共同格 / COND : 条件 / CONJ : 接続 / COOR : 同時 / COP : コピュラ動詞語幹 /

<sup>8</sup> 音素目録は基本的に南方言と北方言で共通だが、音素配列や形態構造には北方言に特異な点もある。このことは、拙稿（山田2013: 53-69）で詳述した。

<sup>9</sup> 略号一覧は、拙稿（山田2013）で使用した略号を、一部増補・改訂したものである。いまなお文法分析の不十分な形式については明確な定義を保留し、大まかな（ないし、わかる範囲での）定義にとどめてある。

DAT：与格／DIR：方向格／DIT：方向・目的「～しに行く」／DSG：指定格／EMPH：強調／EXC：感嘆／F：定動詞／FUT：未来／HBT：習慣／IM：不完了／IMP：命令／IPSN：非人称／INS：道具格／INTJ：間投詞／ITR：反復／LIKE：類似「～のような」／LNG：様式「～のことばで、～風に」<sup>10</sup>／LOC：場所格／NEG：否定動詞語幹（ə-）／NFUT：近い未来／NIM：否定にともなう不完了形動詞語尾／NOM：主格／P：形動詞（動名詞）／PERS：名詞派生接尾辞「～（する）人」／PL：複数／POSS：所有「～とともに」／PRF：完了／PRL：沿格／PROP：所有「～持ちの」／PTCL：付属語または小詞／REF：再帰（所有）／REV：回帰／SG：単数／SITT：話し手の意志／TILL：限界「～まで」／TOP：主題化／VSF：動詞語幹形成接尾辞／WHQ：疑問詞疑問／YNQ：肯否疑問

### 3. ウイルタ語北方言テキスト：ギシクタウダの生涯

#### 3.1 第1部（2010年12月16日採録）

(1-1) **gə, təɬluŋučiliwii?**  
 gə təɬluŋuč-i-li-wi=i  
 INTJ narrate-FUT.P-1SG=YNQ  
 さて、話そうか？

(1-2) **təɬluŋuččitə ii?**  
 təɬluŋuč-i-ri-tA ii  
 narrate-IM.P-SITT yes  
 話しますよ？

(1-3) **doolju.**  
 doolji+ru  
 hear+IMP  
 お聞きなさい。

(1-4) **“sestra, sestra” umi gəɬburipukkil biččiči**  
 [sestra] [sestra] un-mi gəɬburi-pukki-l biččiči(n)-či  
 sister sister say-COOR.C give.a.name.to-HBT<sup>11</sup>-PL COP.PRF.P-3PL  
**gisiktaudamba purəndu ... purənduunduni<sup>12</sup>.**  
 gisiktauda(n)-bA # purəə(n)-duundu?-ni  
 Gisiktauda-ACC # young-?-3SG  
 「ねえさん、ねえさん！」と呼んだものでした、ギシクタウダが若い頃には。

<sup>10</sup> 山田（2013）で「LNG：派生接辞『～のことばで』」と定義した-dAiを指すが、本稿とは別のところで言語以外の様式を表わす「～風」と解せる場合もあることから、本稿では広義に「様式」とした。ただし、山田（2013）と照合しやすいよう、略号は暫定的にLNG（Language）としておく。より明確な定義は今後の課題とする。

<sup>11</sup> ウイルタ語北方言の動詞語尾-bukki/-pukkiはもっぱら述語形式として用いられ、統語的には定動詞的な特徴をもつが、定動詞とも形動詞（動名詞）とも異なる特殊な人称変化をする（山田2013: 95, 119-123）。本稿ではこの形式が定動詞（F）か形動詞（P）かという問題をひとまずおき、意味からみて「習慣」（HBT）というグロスのみ付しておく。

<sup>12</sup> 原稿にpurənduunduniと書いてあり読み上げもそのとおりだったが、purənduni（purəə(n)-du-ni; young-DAT-3SG）の誤りかもしれない。

- (1-5) **čomi bii əččimbi saara nooni**  
 čomi bii əčči(n)-bi saa-rA nooni  
 therefore 1SG.NOM NEG.PRF.P-1SG know-NIM 3SG.NOM  
**lučadaiji gəlbumbəni, xamačee uiltadaiji gəlbuni.**  
 luča-dAi-ji gəlbu(n)-bA-ni xamačee uilta-dAi-ji gəlbu-ni  
 Russian-LNG-INS name-ACC-3SG what.kind.of Uilta-LNG-INS name-3SG  
 だから私は、彼女のロシア語の名前や、ウイルタ語で何という名前なのか知りませんでした。
- (1-6) **nikiičinə əigəni, umbukkil biččiči**  
 nikiičinə[<Nikityna] əigə-ni un-bukki-l bičči(n)-či  
 Nikita's aunt-3SG say-HBT-PL COP.PRF.P-3PL  
**noomboni.**  
 noomboni  
 3SG.ACC  
 みな、彼女のことをニキータ<sup>13</sup>のおばさん<sup>14</sup>と呼んでいました。
- (1-7) **tari əəktə əəktə bimi j̥iŋ aja əəktə biččini.**  
 tari əəktə əəktə bi-mi j̥iŋ aja əəktə bičči(n)-ni  
 that woman woman COP-COOR.C very good woman COP.PRF.P-3SG  
 彼女は、女性のなかでもとても良い人でした。
- (1-8) **uiltasaldulaka əəkinəŋəči biččini, jaŋgeeŋəči.**  
 uilta-sAl-du=lAkA əəkinə-ŋAči bičči(n)-ni jaŋgee-ŋAči  
 Uilta-PL-DAT=TOP female.chief-LIKE COP.PRF.P-3SG official-LIKE  
 ウイルタの人びとにとっては女首長のような、役人のような人でした。
- (1-9) **kəsənidə j̥iŋ katuma biččini.**  
 kəsə-ni=ddAA j̥iŋ katu-mA bičči(n)-ni  
 language-3SG=EMPH very master-ADJ COP.PRF.P-3SG  
 彼女のことばも、とても威厳がありました。
- (1-10) **məənə poolbi nučiikəsəlbə ətəxumi**  
 məənə poo-l-bi nučiikə-sAl-bA ətəxu-mi  
 REF relative-PL-REF small-PL-ACC take.in.charge-COOR.C  
**nari opooččini məənə mapəŋumuna.**  
 nari o-poon-či(n)-ni məənə mapə-ŋu-munA  
 person become-CAUS-PRF.P-3SG REF old.man-AL-POSS  
 親戚の小さな子たちを引きとって一人前になるまで育てました、自分の夫とともに。

<sup>13</sup> タイダーヌの兄の息子ニキータ・ミヘエフのこと。タイダーヌとギシクタウダ夫妻の養育を受け、後に語り手E. ビビコワの妹リュドミーラと結婚した（図3、(1-17)も参照）。

<sup>14</sup> əigə-は辞書的に「姉」とされるが、ここではビビコワからの聞き取りにもとづき「おばさん」と訳しておく。(1-14)も同様。

- (1-11) **mapaŋuni taidaanu biččini, daaji bjausadu**  
 mapa-ŋu-ni taidaanu biččini(n)-ni daaji bjausa-du  
 old.man-AL-3SG Taidaanu COP.PRF.P-3SG Daaji(big) Bjausa-DAT  
**baljixa nari.**  
 balji-xA(n) nari  
 be.born-PRF.P person  
 彼女の夫はタイダヌという、ダーイ・バヤウサ氏族に生まれた人でした。
- (1-12) **mərəŋji noomboni urəxə ...<sup>15</sup> mərəŋji noomboni**  
 mərə(n)-ji noomboni urə-xA(n) mərə(n)-ji noomboni  
 mind-INS 3SG.ACC get.resemble-PRF.P mind-INS 3SG.ACC  
**urəxə biččini.**  
 urə-xA(n) biččini(n)-ni  
 get.resemble-PRF.P COP.PRF.P-3SG  
 [タイダヌは] 性格が彼女とよく似ていました。
- (1-13) **katu məməni, ʃaŋgee məməni.**  
 katu məməni ʃaŋgee məməni  
 master itself-3SG official itself-3SG<sup>16</sup>  
 首長そのもの、役人そのものでした。
- (1-14) **noondučī purilči anaa biččini, nooči**  
 noondučī puril-či anaa biččini(n)-ni nooči  
 3PL.DAT child.PL-3PL no COP.PRF.P-3SG 3PL.NOM  
**ətəxuxəči məənə poolbari aŋada**  
 ətəxu-xA(n)-či məənə poo-l-bAri aŋada  
 take.in.charge-PRF.P-3PL REF relative-PL-REF.PL bereaved  
**oččiŋsalba, čomi noomboči xəwəččukkil**  
 očči(n)-sAl-bA čomi noomboči xəwəči+bukki-l  
 become.PRF.P-PL-ACC therefore 3PL.ACC call+HBT-PL  
**“nikičin əigəni”, “nikičin aaŋni”.**  
 nikičin əigəni nikičin aaŋni  
 Nikita’s aunt-3SG Nikita’s uncle-3SG  
 彼らには子どもがおらず、孤児になった親戚の子どもを養育していたので、彼らのことを「ニキータのおばさん」「ニキータのおじさん<sup>17</sup>」と呼んだものです。
- (1-15) **goi ɡəlbumbəčiləkə puttə biŋəssəwwee əččiŋbi**  
 goi ɡəlbu(n)-bA-či=lAkA puttə bi-ŋAssAA-wwee əčči(n)-bi  
 another name-ACC-3PL=TOP child COP-CONJ.C-1SG NEG.PRF.P-1SG

<sup>15</sup> この部分では読み原稿のページをめくるため休止して、後で文頭から言い直した。

<sup>16</sup> məməniの語は既刊の辞書で見つからない。この部分の訳は語り手からの教示にもとづく。

<sup>17</sup> aaŋ-は辞書的に「兄」とされるが、ここではビビコワからの聞き取りにもとづき「おじさん」と訳す。(3-13)(3-20)のakkaanuも同様。

**dooljee.**

doolji+rA

hear+NIM

彼らのほかの名前は、私が子どもの頃に聞いたことはありません。

- (1-16) **xamaruu, sagji opee, gisiktauda mama**  
xamaruu sagji o-pee gisiktauda mama  
the.time.after aged become-COND.C Gisiktauda old.woman  
**mittai pulipukki biččini naxulakkatai, bii**  
mittai puli-pukki bičči(n)-ni naxulakka-tAi bii  
1SG.DIR go-HBT COP.PRF.P-3SG Nogliki-DIR 1SG.NOM  
**waalutai pulimi noonduni biwukki biččimbi.**  
waalu-tAi puli-mi noonduni bi-bukki bičči(n)-bi  
Val-DIR go-COOR.C 3SG.DAT COP-HBT COP.PRF.P-1SG  
年をとってから、ギシクタウダばあさんはよく私を訪ねてノグリキへやって来まし  
したし、私もワールへ行っては彼女のところに滞在したものです。

- (1-17) **nooni ətəxuxəni nari ... nooni**  
nooni ətəxu-xA(n)-ni nari nooni  
3SG.NOM take.in.charge-PRF.P-3SG person 3SG.NOM  
**ətəxuxəni nari mamaŋulaxani bii**  
ətəxu-xA(n)-ni nari mamaŋula-xA(n)-ni bii  
take.in.charge-PRF.P-3SG person get.married-PRF.P-3SG 1SG.NOM

**nəuŋiwwee.**

nəu-ŋi-wwēe

younger.sister-INS-1SG

彼女の養子は私の妹と結婚しました。

- (1-18) **buu gisiktau ... gisiktaudandoo duxaili oččipu.**  
buu # gisiktauda-ndoo duxaili očči(n)-pu  
1PL.NOM # Gisiktauda-COM relatives become.PRF.P-1PL

私たちはギシクタウダと親戚になったのです。

- (1-19) **məənə məəttəkkeeri lakəə oččipu.**  
məənə məəttəkkeeri lakəə očči(n)-pu  
REF REF.PL.DIR near become.PRF.P-1PL

互いに近くなりました。

- (1-20) **təəli nooni mittai təəluŋuči-xəni məənə**  
təəli nooni mittai təəluŋuči-xA(n)-ni məənə  
then 3SG.NOM 1SG.DIR narrate-PRF.P-3SG REF

**biwwuribi.**

bi+buri-bi

COP+IPSN.IM.P-REF

そして、彼女は私に自分の生涯のことを語り聞かせてくれました。

- (1-21) **gisiktauda**      **mama**      **baljixani**      **daaji**      **torisa**  
gisiktauda      mama      balji-xA(n)-ni      daaji      torisa  
Gisiktauda      old.woman      be.born-PRF.P-3SG      Daaji(big)      Torisa  
**xaladuni,**      **naxulakka**      **naaduni.**  
xala-du-ni      naxulakka      naa-du-ni  
clan-DAT-3SG      Nogliki      land-DAT-3SG

ギシクタウダばあさんはノグリキの地でダーイ・トリサ氏族に生まれました。

- (1-22) **nooni**      **xalani**      **mopi**      **unikki**      **nuljimi**  
nooni      xala-ni      mopi      uni-kki      nulji-mi  
3SG.NOM      clan-3SG Mopi      river-REF.PRL      move-COOR.C  
**pulipukkil**      **bičči:**      **duwa**      **mopi**      **uni**  
puli-pukki-l      bičči(n)-či      duwa      mopi      uni  
go-HBT-PL      COP.PRF.P-3PL      in.summer      Mopi      river  
**daaduni**      **biiči,**      **tuwə**      **ɣaabbēela**  
daa-du-ni      bi+ri-či      tuwə      ɣaabbēela  
river.mouth-DAT-3SG      COP+IM.P-3PL      in.winter      Nabil'<sup>18</sup>  
**xurəətəini**      **ɣənniči**      **ulaalbari**      **puɣnəməri.**  
xurəə-tAi-ni      ɣənu+ri-či      ulaa-l-bAri      puɣnə-mAri  
mountain-DIR-3SG      return+IM.P-3PL      reindeer-PL-REF.PL      drive-COOR.PL.C  
彼女の氏族はモピ川<sup>19</sup>に沿って季節移動をしながら暮らしていました。夏はモピ川の河口で暮らしますが、冬にはナビリの山の方へトナカイを駆って戻ってゆきます。

### 3.2 第2部（2010年12月16日）

- (2-1) **ojuuka**      **gisiktauda**      **təkkəmbəni**      **təɬuɣuččiləmi.**  
ojuuka      gisiktauda      təkkə(n)-bA-ni      təɬuɣuči+rilA-mi  
a.little      Gisiktauda      root-ACC-3SG      narrate+NFUT.F-1SG

少し、ギシクタウダの家系について話しましょう。

- (2-2) **gisiktauda**      **amini**      **ɣaabbēela**      **uiltani**  
gisiktauda      ami-ni      ɣaabbēela      uilta-ni  
Gisiktauda      father-3SG      Nabil'      Uilta-3SG  
**biččini,**      **geetta**      **xalani.**  
bičči(n)-ni      geetta      xala-ni  
COP.PRF.P-3SG      Geetta      clan-3SG

ギシクタウダの父親はナビリのウイлтаで、ゲーッタ氏族でした。

<sup>18</sup> ウイлта語でɣaabbēelaと呼ばれた土地が、現在ロシア語風にナビリNabil'と呼ばれている。

<sup>19</sup> モピ川はトゥイミ川の河口近くにある小さな分流である（図1-2参照）。

- (2-3) **lučadai gəlbuni pavlov vasilij, uiltadai gəlbuni irgunu.**  
 luča-dAi gəlbu-ni [pavlov] [vasilij] uilta-dAi gəlbu-ni irgunu  
 Russian-LNG name-3SG Pavlov Vasilij Uilta-LNG name-3SG Irgunu  
 ロシア語の名はパウロフ・ワシーリー、ウイльта語の名はイルグヌ。
- (2-4) **ənini baljixani daaji torisa xaladuni.**  
 əni-ni balji-xA(n)-ni daaji torisa xala-du-ni  
 mother-3SG be.born-PRF.P-3SG Daaji(big) Torisa clan-DAT-3SG  
 母親はダーイ・トリサ氏族に生まれました。
- (2-5) **nooni amini naadaktamuna purigənduuri purigə ...**  
 nooni ami-ni naadakta-munA # #  
 3SG.NOM father-3SG brother-POSS # #  
**purigənduri puličiči suu naataini.**  
 purigə(n)-duri puli-či(n)-či suu naa-tAi-ni  
 young-COM.REF go-PRF.P-3PL south land-DIR-3SG  
 母の父〔ギシクタウダの母方の祖父〕は若い時、弟を連れて南の地<sup>20</sup>へ行きました。
- (2-6) **tamačču gaduxači mamaŋuldoori,**  
 tamačču ga-du-xA(n)-či mama-ŋu-l-doori  
 from.there take-REV-PRF.P-3PL old.woman-AL-PL-REF.PL.DSG  
**duu kuuji əktəmbəni.**  
 duu kuuji əktə(n)-bA-ni  
 two Ainu woman-ACC-3SG  
 そこからアイヌの女を二人、妻として連れ帰ってきました。
- (2-7) **čaa əkkəlbə gagaččeeri biččiči sagdandalaa.**  
 čaa əkkəl-bA ga-kAččeeri bičči(n)-či sagda(n)-dAlAA  
 that women-ACC take-PRF.PL.C COP.PRF.P-3PL old-TILL  
 その女たちを妻として、年をとるまでずっと暮らしました。
- (2-8) **nooni gəlbuni kirillov vasilij, sələ mapa,**  
 nooni gəlbu-ni [kirillov] [vasilij] sələ mapa  
 3SG.NOM name-3SG Kirillov Vasilij Sele<sup>21</sup> old.man  
**mamaŋuni gəlbuni bələkə.**  
 mama-ŋu-ni gəlbu-ni bələkə  
 old.woman-AL-3SG name-3SG Beleke  
 彼の名前はキリッロフ・ワシーリー、〔ウイльта語では〕サラ爺、妻の名前はバ

<sup>20</sup> ウイльтаの南のグループが居住していた、現在のポロナISK周辺地域(タライカ地方)のこと。  
<sup>21</sup> sələ (本稿の訳文では「サラ」)はウイльта語で「鉄」を意味する。ウイльтаの南の地方に伝わった昔話の主人公にも sələ (シャラ) という名の人物が登場し、鉄のように強靱な肉体をもつ豪胆な男として描かれている(池上2002: 32-40)。この主人公とK. ワシーリーとの直接的な関係はないだろうが、sələ という名からワシーリーもまた強い人物だったと推測される。

ラカ。

- (2-9) **noonduči biččini ilaa puttə, ilaa əəktə.**  
 noonduči bičči(n)-ni ilaa puttə ilaa əəktə  
 3PL.DAT COP.PRF.P-3SG three child three woman

彼らの間には子どもが三人、女の子が三人いました。

- (2-10) **sagjiduma kirillova ... sagjiduma kirillova**  
 sagji-dumA [kirillova] sagji-dumA [kirillova]  
 aged-ADJ Kirillova aged-ADJ Kirillova

**ul'jana vasil'evna, čoujouda.**

[ul'jana] [vasil'evna] čoujouda

Ul'jana Vasil'evna Choujouda

一番上の娘がギリッロワ・ウリヤーナ・ワシーリエヴナ、[ウイльта語の名は] チョウヨウダ。

- (2-11) **čou ... tari gisiktauda ənini.**  
 # tari gisiktauda əni-ni  
 # that Gisiktauda mother-3SG

それがギシクタウダの母親です。

- (2-12) **gisiktauda ənini baljuuxani nuḡu puttəə,**  
 gisiktauda əni-ni baljuu-xA(n)-ni nuḡu puttə+bA  
 Gisiktauda mother-3SG give.birth-PRF.P-3SG six child+ACC

**duu xussəə, jiin əəktəə.**

duu xusə+bA jiin əəktə+bA

two man+ACC four woman+ACC

ギシクタウダの母親は六人の子を生みました、二人の男の子と四人の女の子を。

- (2-13) **ilaa puttəni nučiikəjji buččiči, ilaannee**  
 ilaa puttə-ni nučiikə(n)-ji bul+či(n)-či ilaa(n)-nnee  
 three child-3SG small-INS die+PRF.P-3PL three-PERS

**sagdandalaa biččiči.**

sagda(n)-dAlAA bičči(n)-či

old-TILL COP.PRF.P-3PL

三人は幼くして死んでしまいましたが、三人は長生きしました。

- (2-14) **məənə čoujouda japku tunda<sup>22</sup> ananiḡula biččini.**  
 məənə čoujouda japku tunda anani-ḡu-lA bičči(n)-ni  
 REF Choujouda eight five year-AL-LOC COP.PRF.P-3SG

チョウヨウダ自身は八五歳まで生きました。

<sup>22</sup> 文意から考えると、十の位の数詞 *japkundoo* を用いて *japkundoo tunda*（八十 五）というかたちが期待されるところだが、ここでは一の位の数詞を並列して *japku tunda*（八 五）という言い方になっている。cf. (2-29)(2-30).

- (2-15) **təə ... tunda ananiḡulaa biččini.**  
 # tunda anani-ḡu-lA+kAA bičči(n)-ni  
 # five year-AL-LOC+EXC COP.PRF.P-3SG  
 … [八] 五歳まで生きました。
- (2-16) **bii nučiikəṇji itəxəmbi noomboni buččimbə.**  
 bii nučiikə(n)-ji itə-xA(n)-bi noomboni bul+či(n)-bA  
 1SG.NOM small-INS see-PRF.P-1SG 3SG.ACC die+PRF.P-ACC  
 私は小さいときに彼女の死ぬところを見ました。
- (2-17) **jiṇ sagji biččini təəli.**  
 jiṇ sagji bičči(n)-ni təəli  
 very old COP.PRF.P-3SG then  
 あの頃にしては、かなりの年寄りでした。
- (2-18) **arpun duwə naaduni noomboni xumuxəči.**  
 arpun duwə naa-du-ni noomboni xumu-xA(n)-či  
 Arpun Duwe land-DAT-3SG 3SG.ACC bury-PRF.P-3PL  
 [人びとは] アルブン・ドゥワの地<sup>23</sup>に彼女を葬りました。
- (2-19) **gisiktauda amini buččini nooni nučiikənduni.**  
 gisiktauda ami-ni bul+či(n)-ni nooni nučiikə(n)-du-ni  
 Gisiktauda father-3SG die+PRF.P-3SG 3SG.NOM small-DAT-3SG  
 ギシクタウダの父親は、彼女が幼いときに死にました。
- (2-20) **nuḡu ananiḡulu biččini.**  
 nuḡu anani-ḡu-lu bičči(n)-ni  
 six year-AL-PROP COP.PRF.P-3SG  
 [ギシクタウダは] 六歳でした。
- (2-21) **nəḡnə joosomori ḡenəxəči ugdaḡi namutai.**  
 nəḡnə jooso-mAri ḡenə-xA(n)-či ugda-ji namu-tAi  
 in.spring hunt.sea.animals-COOR.PL.C go-PRF.P-3PL boat-INS sea-DIR  
 春に海獣狩猟をしに舟に乗って海へ行ったのでした。
- (2-22) **čadu čipaalinnee xuju narisal muudu buččiči.**  
 čadu čipaali-nnee xuju nari-sAl muu-du bul+či(n)-či  
 that.DAT all-PERS nine person-PL water-DAT die+PRF.P-3PL  
 そこで九人全員水死してしまいました。
- (2-23) **xooni toličee?**  
 xooni to-li-či+kA  
 how do-FUT.P-3PL+WHQ

<sup>23</sup> アルブン・ドゥワと呼ばれる土地はピリトゥン（現在は廃村）からオホーツク海に向かって東に進んだ辺りにある（ビビコワによる；図1-2参照）。1920年代に亡くなった北のウイльтаの最後のシャマンが、アルブン・ドゥワの地に葬られたと伝えられている。今日もトナカイ飼育業者の移動経路上にあり、トナカイ飼育民の祭りが行われる地でもある。2010年8月に筆者も同行した風間(2011)の調査の際に車で通過したが、残念ながら正確な地点を特定できない。

どうすればよいでしょう？

- (2-24) **ilaa      əktənee,      geeda      j̥iŋ ...      j̥iin      ananiŋulu      xusənee,**  
 ilaa      əktə-nnee      geeda      # ...      j̥iin      anani-ŋu-lu      xusə-nnee  
 three      female-PERS      one      #      four      year-AL-PROP      male-PERS  
**ulaalči      tundadoo      j̥ili.**  
 ulaa-l-či      tundadoo      j̥ili  
 reindeer-PL-3PL      fifty      head

女の人三人、四歳の男の子一人、トナカイは五十頭 [おりました]。

- (2-25) **amini      pundaduni,      purəə      əktə,      načikka,      innokent'eva**  
 ami-ni      pundadu-ni      purəə      əktə      načikka      [innokent'eva]  
 father-3SG      sister-3SG      young      female      Nachikka      Innokent'eva  
**marija      ivanovna,      kəŋkə,      mapəŋumuna      noomboči**  
 [marija]      [ivanovna]      kəŋkə      mapə-ŋu-munA      noomboči  
 Marija      Ivanovna      Kengke      old.man-AL-POSS      3PL.ACC  
**gaanitaxači.**  
 gaanita-xA(n)-či  
 go.to.pick.up-PRF.P-3PL

父の妹である [当時] 若い女性ナチッカ、インノケンティエワ・マリーヤ・イヴァーノヴナ、[またの名を] カンカ<sup>24</sup>が、夫とともに彼らを迎えに行きました。<sup>25</sup>

- (2-26) **ulaalbači      puŋnəmi      waalu      naataini      orokčiči.**  
 ulaa-l-bA-či      puŋnə-mi      waalu      naa-tAi-ni      orok-či(n)-či  
 reindeer-PL-ACC-3PL      drive-COOR.C      Val      land-DIR-3SG      carry-PRF.P-3PL  
 [そして] 彼らのトナカイを駆ってワールの地へ連れて行きました。

- (2-27) **tari      načikka      noomboči      gəgdəkə      bələčixəni.**  
 tari      načikka      noomboči      gəgdəkə      bələči-xA(n)-ni  
 that      Nachikka      3PL.ACC      always      help-PRF.P-3SG  
 このナチッカが、いつも彼らの面倒を見ました。

- (2-28) **načikka sagdanduxanduni      gisiktauda      mama      noomboni**  
 načikka      sagda(n)-du-xA(n)-du-ni      gisiktauda      mama      noomboni  
 Nachikka      old-REV-PRF.P-DAT-3SG      Gisiktauda      old.woman      3SG.ACC  
**uŋixəni.**  
 uŋi-xA(n)-ni  
 take.care-PRF.P-3SG

ナチッカが年老いたとき、ギシクタウダばあさんは彼女の世話をしました。

<sup>24</sup> マリーヤ・イヴァーノヴナ・インノケンティエワ Marija Ivanovna Innokent'eva は、ウイльта語名でナチッカ načikka。カンカ kəŋkə はあだ名で、彼女がよく「カンカン カンカン ケーラミ…… kəŋkəŋ kəŋkəŋ keeləmi ...」と歌ったことからついたという（ビビコワによる）。

<sup>25</sup> ナチッカ (M. I. インノケンティエワ) が亡くなった兄の家族を引き取ったという、この逸話は、Missonova (2006: 78) に詳しく報告されている。

- (2-29) **tari mama biččini ĵapku ilaa ananee.**  
 tari mama bičči(n)-ni ĵapku ilaa anani+bA  
 that old.woman COP.PRF.P-3SG eight three year+ACC  
 その [ナチッカ] ばあさんは八三年生きました。

- (2-30) **gisiktauda mama bakka**  
 gisiktauda mama bakka  
 Gisiktauda old.woman also  
**biččini ĵapku ilaa**  
 bičči(n)-ni ĵapku ilaa  
 COP.PRF.P-3SG eight three  
**ananee.**  
 anani+bA  
 year+ACC  
 ギシクタウダばあさんもまた八三年  
 生きたのでした<sup>26</sup>。



図4 左から、ギシクタウダ (M. S. ミヘエワ) とその叔母ナチッカ (M. I. インノケンティエワ) (撮影年不詳; サハリン州郷土博物館所蔵)

- (2-31) **otokoo goči tæluŋučiliwi.**  
 otokoo goči tæluŋučili-wi  
 later again narrate-FUT.P-1SG  
 [続きは] あとでまた話しましょう。

### 3.3 第3部 (2010年12月20日採録)

- (3-1) **uilta ækkəlɲi ĵiŋ uilələ biččiči.**  
 uilta ækkəl-ni ĵiŋ uilə-lA bičči(n)-či  
 Uilta female.PL-3SG very work-? COP.PRF.P-3PL  
 ウイルタの女たちはとても働き者でした。
- (3-2) **gisiktauda bakkaa tamačee biččini.**  
 gisiktauda bakkaa tamačee bičči(n)-ni  
 Gisiktauda also like.that COP.PRF.P-3SG  
 ギシクタウダもまたそうでした。
- (3-3) **kolxoosi biŋəssəəni ækkəl məəɲə pakčiduŋjeeri**  
 kolxoosi [<kolkhoz] bi-ŋAssAA-ni ækkəl məəɲə pakčidu?-jjeeri  
 Kolkhoz COP-CONJ.C-3SG women REF craft?-REF.INS.PL  
**numilbari dəpoočči biččiči, andulbari**  
 numi-l-bAri dəp+boon-ri bičči(n)-či andu-l-bAri  
 family-PL-REF.PL eat+CAUS-IM.P COP.PRF.P-3PL article-PL-REF.PL

<sup>26</sup> ここではパスポート記載の生年「1910年」をもとに亡くなった時 (1993年) の年齢を83歳としている。脚注4参照。

- xudasimari luča gasattaini pulisiči.**  
xudasi-mAri luča gasa(n)-tAi-ni puli-si-či  
trade-COOR.PL.C Russian village-DIR-3SG go-IM.P-3PL  
コルホーズがあった頃、女たちは手工業で自分たちの家族を食べさせていました、  
自分の作った製品を売りにロシア人の村に通います。
- (3-4) **gisiktauda palaatkaduni loonou ... loonouni**  
gisiktauda palaatka[<palatka]-du-ni # loonou-ni  
Gisiktauda tent-DAT-3SG # hanger-3SG  
**malukki čakkaa anduži.**  
malu-kki čakkaa andu-ži  
center-REF.PRL a.lot article-INS  
ギシクタウダのテントの上座側にある物干し棚は、製品でいっぱい。
- (3-5) **čadu uttaldaa bara, tuupuləddəə bara,**  
čadu utta-l=ddAA bara tuupulə[<tufli]=ddAA bara  
that.DAT boots-PL=EMPH a.lot slippers=EMPH a.lot  
**xusənnē bagduxiniddaa biini.**  
xusə-nnee bagduxi-ni=ddAA bi+ri-ni  
male-PERS clothes-3SG=EMPH COP+IM.P-3SG  
そこには靴もたくさん、内履きもたくさんあって、男性用の衣類もあります。
- (3-6) **xaiwaka xudassini, xaiwaka kolxoositai**  
xai-bA=kA xudasi+ri-ni xai-bA=kA kolxoosi-tAi  
what-ACC=WHQ trade+IM.P-3SG what-ACC=WHQ Kolkhoz-DIR  
**andusini.**  
andu-si-ni  
make-IM.P-3SG  
何か売っては、何かをコルホーズ用に作ります。
- (3-7) **nulǰiməri ɣənneeduči gilbəči ɣonimee, ǰiŋ bajauli.**  
nulǰi-mAri ɣənə+ri-du-či gilbə-či ɣonimi+kAA ǰiŋ bajauli  
move-COOR.PL.C go+IM.P-DAT-3PL team-3PL long+EXC very rich  
牧地を移動して行くときのトナカイの行列は長くて、とても裕福そうでした。
- (3-8) **xulməumə nambači ojokkeeni kumalaal, ajaa**  
xulməu-mA namba-či ojo-kkee-ni kumalaa-l aja+kAA  
container-ADJ load-3PL outside-PRL-3SG fur.rug-PL good+EXC  
**ajaa nambalči.**  
aja+kAA namba-l-či  
good+EXC load-PL-3PL  
フルマウ（白樺樹皮製の行李）にまとめた荷物の上にクマラー（毛皮の敷物）を  
かぶせて、それはそれは美しい荷物です。

- (3-9) **ulaalči**                      **čipaali**                      **kunḡiləəlu**                      **čooraa lu,**                      **nəəməlči**  
 ulaa-l-či                      čipaali                      kunḡiləə-lu                      čooraa-lu                      nəəmə-l-či  
 reindeer-PL-3PL                      altogether                      bell-PROP                      bell-PROP                      riders.saddle-PL-3PL  
**jiḡ**                      **nojiḡi**                      **andupula,**                      **irgapula**  
 jiḡ                      noji-ji                      andu-pulA                      irga-pulA  
 very                      beautiful-INS                      make-IPSN.PRF.P                      decorate-IPSN.PRF.P  
**meetaskaḡi**                      **ojolopula.**  
 meetaska-ji                      ojo-lA-pulA  
 reindeer.head.fur-INS                      outside-VSF-IPSN.PRF.P  
 トナカイたちはみな、鉄製の鈴をつけ、騎乗用の鞍は美しく飾られ、トナカイの頭の毛皮で覆われました。
- (3-10) **məənəddəə**                      **tətəəči**                      **ulinga,**                      **tuwəsuu**                      **aapuči**                      **səəpəmə,**  
 məənə=ddAA                      tətəə-či                      ulinga                      tuwə-suu                      aapu-či                      səəpə-mA  
 REF=EMPH                      clothes-3PL                      good                      in.winter-ADJ                      cap-3PL                      sable-ADJ  
**uiləməri**                      **pulisi**                      **aapuči**                      **meetakaa,**                      **tətoolbəri,**  
 uilə-mAri                      puli-si                      aapu-či                      meetakaa                      tətoo-l-bAri  
 work-COOR.PL.C                      go-IM.P                      cap-3PL                      hat.made.of.fur                      clothes-PL-REF.PL  
**ojokkeeni**                      **nuḡjikadu**                      **suulbəri**                      **təččiči.**  
 ojo-kkee-ni                      nuḡjika-du                      suu-l-bAri                      tətu+ri-či  
 outside-PRL-3SG                      cold-DAT                      fur.coat-PL-REF.PL                      wear+IM.P-3PL  
 人びとの衣服も美しく、冬用のクロテン皮でできた帽子、仕事で行くときにはメーターカー（トナカイの毛皮でできた帽子）、寒いときには上に毛皮のコートを羽織ります。
- (3-11) **muruulči**                      **irgapula.**  
 muru(u)-l-či                      irga-pulA  
 fur.long.boots-PL-3PL                      decorate-IPSN.PRF.P  
 ムルー（胴長靴）<sup>27</sup>は模様がつけてあります。
- (3-12) **lugduričilda**                      **bakkaa**                      **irgapula.**  
 lugduri-či-l=ddAA                      bakkaa                      irga-pulA  
 fur.boots-3PL-PL=EMPH                      also                      decorate-IPSN.PRF.P  
 ルグドゥリ（長靴）もまた模様がつけてあります。
- (3-13) **taidaanu**                      **akkaanu**                      **ajaa**                      **nari**                      **biččini.**  
 Taidaanu                      akkaanu                      ajaa+kAA                      nari                      bičči(n)-ni  
 Taidaanu                      uncle                      good+EXC                      person                      COP.PRF.P-3SG  
 タイダーヌおじさんはとても良い男でした。

<sup>27</sup> ウイルタ語北方言では、utta「靴（総称）」の下位分類として meərəə ~ muruu「胴長靴（ひざ上丈）」、lugduri「長靴（ひざ下丈）」などがある（山田・笹倉2010: 107、一部表記を改訂）。

- (3-14) **“mimbee ajauxambani bii saariwi”,**  
 mimbee ajau-xA(n)-bA-ni bii saa-ri-wi  
 1SG.ACC love-PRF.P-ACC-3SG 1SG.NOM know-PRF.P-1SG  
**umbukki biččini, sagdanduppee gisiktauda ənəkə.**  
 un-bukki bičči(n)-ni sagdan-du-pee gisiktauda ənəkə  
 say-HBT COP.PRF.P-3SG old-REV-COND.C Gisiktauda mama  
 「彼が私を愛してたことは知ってるわ」と言っていました、ギシクタウダかあさんは年とってから。
- (3-15) **nuṇundoo puləmee ane ... ananiṇṇu**  
 nuṇundoo pulə-mi+kAA? # anani-ṇu+bA?  
 sixty be.left.over-COOR.C+EXC? # year-AL+ACC?  
**biččini ... biččiči nooči gəsə.**  
 # bičči(n)-či nooči gəsə  
 # COP.PRF.P-3PL 3PL.NOM together  
 六十年余り、彼らは一緒に暮らしました。
- (3-16) **gisiktauda ənəkə jīṇ uliṇgaṇi gumaaska**  
 gisiktauda ənəkə jīṇ uliṇga-ji gumaaska[<bumazhka]+bA  
 Gisiktauda mama very good-INS money+ACC  
**daputtaukki biččini, gəgdəkə gumaaskaṇulu.**  
 daputa+bukki bičči(n)-ni gəgdəkə gumaaska-ṇu-lu  
 hold+HBT COP.PRF.P-3SG always money-AL-PROP  
 ギシクタウダかあさんはお金を管理するのがとても上手で、いつもお金持ちでした。
- (3-17) **səsumbə andumi gumaaska baarini,**  
 səsu(n)-bA andu-mi gumaaska baa-ri-ni  
 order-ACC make-COOR.C money find-IM.P-3SG  
**purilni daaji opee gumaaskaṇuddooni**  
 puril-ni daaji o-pee gumaaska-ṇu-ddoo-ni  
 children-3SG big become-COND.C money-AL-DSG-3SG  
**buuriči, nooni čii oppourini.**  
 buu-ri-či nooni čii oppou-ri-ni  
 give-IM.P-3PL 3SG.NOM for.a.long.time collect-IM.P-3SG  
 注文に応じてお金を稼ぎ、子どもたちが大きくなってからはお金を与え、彼女はずっと貯金をしています。
- (3-18) **məənələkə bilda əččini bee.**  
 məənə=lAkA bilda əčči(n)-ni bi+rA  
 REF=TOP miserly NEG.PRF.P-3SG COP+NIM  
 彼女自身はけちな人ではありませんでした。

- (3-19) **siinəjisəltəi buuwukki biččini gələə ... gəlləəjiči.**  
 siinəji-sAl-tAi buu-bukki bičči(n)-ni # gələ+rAi-či  
 suffer-PL-DIR give-HBT COP.PRF.P-3SG # wish.for+COND.C-3PL  
 困窮している人たちに与えていました、彼らが求めてきたら。
- (3-20) **taidaanu akkaanu umbukki biččini, “əjje**  
 taidaanu akkaanu un-bukki bičči(n)-ni əjje  
 Taidaanu uncle say-HBT COP.PRF.P-3SG NEG.IMP  
**məətəččee gumaaskaa əwəsəi tawasai, əjje buuččee.**  
 məətə-či+rA gumaaska+bA əwəsəi tawasai əjje buu-či+rA  
 throw-ITR+NIM money+ACC here there NEG.IMP give-ITR+NIM  
 タイダーヌおじさんは言っていました、「お金をあちこちばらまくな、配るな。
- (3-21) **amba daajisal goči!**  
 amba daaji-sAl goči  
 very big-PL PTCL  
 [みんな] もう大人なのだから。
- (3-22) **bijini uilleelool.”**  
 bijini uilə+riloo?-l  
 let work+?-PL  
 働かせておきなさい。」
- (3-23) **sagjindupee jīj ajauxani ... jīj ajauxači**  
 sagjindu-pee jīj ajau-xA(n)-či jīj ajau-xA(n)-či  
 get.old-COND.C very love-PRF.P-3PL very love-PRF.P-3PL  
**sundattaa bəiččurree.**  
 sundatta+bA bəiči+buri+bA  
 fish+ACC catch+IPSN.IM.P+ACC  
 彼らが年とってから、魚捕りをとても好みました。
- (3-24) **orooi, inəji inəji pulisiči umbučiməri,**  
 orooi inəji inəji puli-si-či umbuči-mAri  
 INTJ day day go-IM.P-3PL catch.fish.with.rod-COOR.C  
**duwaddaa, tuwəddəə, boloddoo, nəŋnəddəə.**  
 duwa=ddAA tuwə=ddAA bolo=ddAA nəŋnə=ddAA  
 in.summer=EMPH in.winter=EMPH in.autumn=EMPH in.spring=EMPH  
 それはもう、毎日毎日釣りに出かけました、夏も冬も、秋も春も。
- (3-25) **gitumi puličiči.**  
 gitu-mi puli-či-či  
 walk-COOR.C go-PRF.P-3PL  
 歩いて出かけました。

- (3-26) **sundattaŋuči gəgdəkə biini.**  
 sundatta-ŋu-či gəgdəkə bi+ri-ni  
 fish-AL-3PL always COP+IM.P-3SG  
 彼らの魚はいつでもいます。
- (3-27) **tamačee dorodukkeeri goroo biččiči.**  
 tamačee doro-dukkeeri goroo bičči(n)-či  
 like.that character-REF.ABL? for.a.long.time COP.PRF.P-3PL  
 [彼らは] そんな人柄で、ずっと暮らしていました。
- (3-28) **səksə kinoombə itəndə ... itəndənəsiči kiluubutəi.**  
 səksə kinoo(n)[<kino]-bA # ... itə-ndA-nA-si-či kiluubu[<klub]-tAi  
 evening film-ACC # see-DIT-ITR-IM.P-3PL meeting.place-DIR  
 晩には、集会所へ映画を見に通います。
- (3-29) **anaradu gisiktauda uiltadaiji jaajjaukki biččini.**  
 anara-du gisiktauda uilta-dAi-ji jaaja+bukki bičči(n)-ni  
 festival-DAT Gisiktauda Uilta-LNG-INS sing+HBT COP.PRF.P-3SG  
 お祭りのとき、ギシクタウダはウイルタ語で歌ったものでした。
- (3-30) **bii waalutai pulisiduwwee təəluŋulbə təəluŋuččukki**  
 bii waalu-tAi puli-si-du-wwee təəluŋu-l-bA təəluŋuči+bukki  
 1SG.NOM Val-DIR go-IM.P-DAT-1SG legend-PL-ACC narrate+HBT  
**biččini.**  
 bičči(n)-ni  
 COP.PRF.P-3SG  
 私がワールへ行くと、昔話を語り聞かせてくれたものでした。
- (3-31) **barambaa saaxani xooni uiltasal biččimbəči.**  
 bara(n)-bA+kAA saa-xA(n)-ni xooni uilta-sAl bičči(n)-bA-či  
 a.lot-ACC+EXC know-PRF.P-3SG how Uilta-PL COP.PRF.P-ACC-3PL  
 ウイルタの人々がどのように暮らしていたか、たくさん知っていました。
- (3-32) **gə, ələ.**  
 gə ələ  
 INTJ enough  
 さあ、おしまい。

#### 参考文献

- 池上二良1994「ウイルタ語の南方言と北方言の相違点」『北海道立北方民族博物館研究紀要』3: 9-38 [2001『ツングース語研究』: 247-283, 汲古書院].
- 池上二良1997『ウイルタ語辞典』北海道大学図書刊行会.
- 池上二良2002『増訂ウイルタ口頭文芸原文集』（ツングース言語文化論集16）大阪学院大学.
- 風間伸次郎2011「ウイルタ語調査報告」『北方人文研究』4: 51-74.

- 澗瀨久治（編）1981『ウイльта語辞典』網走市北方民俗文化保存協会。
- 山田祥子2013『ウイльта語北方言の文法と言語接触に関する研究』北海道大学大学院文学研究科博士学位申請論文。
- 山田祥子・笹倉いる美2010「北海道立北方民族博物館所蔵のウイльта資料I：対応する北方言の語彙を中心に」『北海道立北方民族博物館研究紀要』19: 89-109.
- Bibikova, E. A. 2009 “Vspominanija”. T. P. Roon et al. eds. *Ujl'ta Evenki. Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskij gosudarstvennyj oblastnoj kraevedcheskij muzej*.
- Bibikova, E. A. 2014 *Polet vdokhnovennoj dushi: Ujl'tinskie ornament E. A. Bibikovej. Juzhno-Sakhalinsk: Izdatel'stvo “Sakhalin - Priamurskie vedomosti”*.
- Bibikova, E. A. & E. V. Sverkunova 2012 *Prepodavanje ujl'tinskogo jazyka: Programmno-metodicheskij sbornik. Juzhno-Sakhalinsk: Izdatel'stvo IROSO*.
- Ikegami, J. 1959 “The verb inflection of Orok”. 『国語研究』9: 34-73, 国学院大学国語研究会 [2001『ツングース語研究』: 24-66, 汲古書院] .
- Ikegami, J. 1973 “Orok Verb-Stem-Formative Suffixes”. 『北方文化研究』7: 1-17, 北海道大学北方文化研究施設 [2001『ツングース語研究』: 66-72, 汲古書院] .
- Ikegami, J. 1974 “Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprachen”. *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent International Altaistic Conference 1969 in Berlin*. : 271-272. Berlin: Akademie-Verlag [2001『ツングース語研究』: 395-396, 汲古書院] .
- Missonova, L. I. 2006 *Ujl'ta Sakhalina: Bol'shie problemy malochislennogo naroda*. Moskva: Nauka.
- Ozolinja, L. V. 2001 *Oroksko-russkij slovar': okolo 12000 slov*. Novosibirsk: Izdatel'stvo SO RAN.
- Ozolinja, L. V. 2013 *Grammatika orokskogo jazyka*. Novosibirsk: Akademicheskoe izdatel'stvo “Geo”.
- Ozolinja, L. V. & I. Ja. Fedjaeva 2003 *Oroksko-russkij i russko-orokskij slovar'*. Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskoe knizhnoe izdatel'stvo.
- Petrova, T. I. 1967 *Jazyk Orokov (Ul'ta)*. Leningrad: Izdatel'stvo “Nauka”.
- Pilsudski, B. 1912 *Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore*. Cracow.
- Pilsudski, B. 1998 “From the report on the expedition to the Oroks in 1904”. A. F. Majewicz ed. *The Collected Works of Bronisław Pilsudski, Volume 1: The Aborigines of Sakhalin*. : 618-677. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Roon, T. P. 1996 *Ujl'ta Sakhalina: Istoriko-etnograficheskoe issledovanie traditsionnogo xozhjaistva i material'noj kul'tury XVIII - serediny XX vekov. Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskoe oblastnoe knizhnoe izdatel'stvo/ Sakhalinskij oblastnoj kraevedcheskij muzej*.
- Roon, T. P. & I. A. Tsupenkova 1995 “Usnuvshaja legenda (Posvjashchaetsja pamjati Gisiktavdy - M. S. Mikheevoj)”. *Vestnik sakhalinskogo muzeja: ezhegodnik*

*sakhalinskogo oblastnogo kraevedcheskogo muzeja*. 2: 222-230, Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskij oblastnoj kraevedcheskij muzej.

Smoljak, A. B. 1975 *Etnicheskie protsessy u narodov nizhnego Amura i Sakhalina*. Moskva: Izdatel'stvo "Nauka".

Tsumagari, T. 2009 "Grammatical Outline of Uilta (Revised)". In *Journal of the Graduate School of Letters*, Vol.4: 1-21, Sapporo: Graduate School of Letters, Hokkaido University.

The Life of *Gisiktauda* (Marija Mikheeva)  
— An Uilta Text in Northern Dialect —

Yoshiko YAMADA  
(Hokkaido Museum of Northern Peoples)

This paper aims to present a text of the Northern Dialect of Uilta (formerly called Orok) spoken in the northeastern part of Sakhalin Island. The text was provided by Elena Bibikova (1940- ) in Nogliki (Sakhalin oblast, Russia) in December 16th and 20th, 2010. She told about the life of the late *Gisiktauda* (Marija Mikheeva, 1910?-1993), a famous successor of the Uilta culture and language.

The present text shows the following information about *Gisiktauda*'s family, her character etc. *Gisiktauda* was born in a nomadic family, who followed their reindeer herd along the Mopi River (a branch of the Tym' River). Her father was *Irgunu* (Pavlov Vasilij) of *Geetta* clan, and her mother was *Choujouda* (Ul'jana Kirillova) of *Daaji Torisa* clan. *Choujouda*'s mother *Beleke* appears to have been one of the Ainu women, who were brought from the southern part of Sakhalin.

*Gisiktauda* got married to *Taidaanu* (Grigorij Mikheev) of *Daaji Bajausa* clan, and after that she lived along the Val River. She worked at kolkhoz "Val" and supported reindeer herding, the Uilta traditional way of life.

*Gisiktauda* and *Taidaanu* had no children, but they brought up some orphans. While she was good at money management, she did not mind giving money to the needy. She played role like a female chief or an official among the Uilta people. After she became old, she liked fishing as well as going to movies with her husband. She also used to sing songs in festivals and she often told legends to the narrator of the present text.

(やまだ・よしこ yamadayos5@gmail.com)